

さいたま市民医療センターにて慢性腎臓病でご加療中の方へ

当院ではさいたま市協力病院における腎代替療法導入状況の実態調査（多施設共同研究）に参加しております。この研究はさいたま市における慢性腎臓病の実態調査のために多施設で行われる共同研究です。

【研究課題】

さいたま市協力病院における腎代替療法導入状況の実態調査

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 自治医科大学附属さいたま医療センター腎臓内科
研究責任者 森下義幸 自治医科大学附属さいたま医療センター腎臓内科教授
担当業務 研究の立案と総括 データ収集・解析

【共同研究機関】

研究機関
さいたま赤十字病院 腎臓内科 部長 雨宮守正
JCHO さいたま北部医療センター 腎臓内科 院長 黒田豊
さいたま市民医療センター 内科 医長 宮澤晴久
担当業務：データ収集

【研究期間】

許可されてから 2031 年 3 月 31 日まで

【対象となる方】

2019 年 1 月 1 日 ～ 2029 年 3 月 31 日の間に当院で新規腎代替療法を導入した患者

【研究の意義・目的】

我が国の慢性透析療法を受けている患者総数は 2018 年 12 月末で 339,841 人であり年々増加しています。新規透析導入患者数は 40,468 人でこちらも年々増加しています。これらの透析患者の増加は国民の生命予後、生活の質、国民医療費に大きな問題になっています。厚生労働省でも「慢性腎臓病（CKD）に対して、適切な治療を早期から実施することにより、重症化予防を徹底し、CKD 患者（透析患者及び腎移植患者を含む）の QOL の維持向上を図る」その結果として、「2028 年までに年間新規透析導入患者数を 3 万 5 千人以下（現 3 万 9 千人）に減少させる」ことを対策として明示しています。

この方策をうけて自治医科大学附属さいたま医療センター腎臓内科では、さいたま市民医療センター、JCHO さいたま北部医療センター、さいたま赤十字病院を腎臓病専門診療施設として大宮医師会の先生方と CKD の診療連携を開始しています。その診療連携のアウトカムとして、さいたま市での腎臓病診療連携協力専門施設における腎代替療法導入状況の実態調査をおこなうことは本エリアの CKD 連携体制を評価し必要な対策の貴重な資料となると考えています。

【研究の方法】

この研究は、さいたま市民医療センター倫理委員会、自治医科大学附属さいたま医療センター倫理委員会の承認を受け実施するものです。腎代替療法導入となった時点で診療録に記録されている透析方法（血液透析、腹膜透析、腎移植）、導入時期、導入時年齢、性別、元腎疾患を収集して行う研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。共同研究施設間での情報の授受がある場合は、各施設で対応表なしの匿名化をおこなった情報をデータにパスワードを設定し電子メールで授受します。

【個人情報の保護】

この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

あなたの情報・データは、自治医科大学附属さいたま医療センターに送られ解析・保存されますが、送付前に氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、匿名化され、森下義幸がパスワードロックのかかったパソコンで厳重に保管します。

この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局まで2031年3月31日までにご連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。ご不明な点がありましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

この研究に関する費用は、自治医科大学附属さいたま医療センター腎臓内科の研究費から支出されています。本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

2020年4月

【問い合わせ先】

自治医科大学附属さいたま医療センター腎臓内科
住所：埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-7-42
電話：048-647-2111